

増一種ヲグラセンノウト云アリ、草質尋常ノモノヨリ小ニシテ、葉細長ク、花亦小ナリ、數色アリ、愛スベシ、

〔地錦抄 附録二〕小倉仙翁花

花形よく小輪花のまはり切りさきて、なでしこの花のごとく、花數多く咲くれなると白色の二品あり、葉ほそ長くして、柳葉のごとく、六月末比開く、此種子延寶年中に渡り、其後中絶したるを、又近年見出して植る、

〔剪花翁傳三四月開花〕松本仙翁花 花白淡赤み黒紅等也、開花四月中旬、育方瞿麥に同じ、形瞿麥より大きく和らか也、分株冬巢に入頃より、春芽出しまでにすべし、

〔剪花翁傳三五月開花〕仙翁花 剪秋羅 略してセンともいへり、花赤、開花五月中旬より八月まで、咲、方日向、地三分濕り、土芥埃土、肥油粕よし、分株正月芽出しまへよし、

〔殿中申次記〕七月六日

一仙翁花一荷 右京大夫殿 一同 一荷 眞木島次郎

七日

一仙翁花一筒 蔭涼軒 一同 三筒 三條殿 一同 一筒 藤兵衛佐殿 一同

同 細川右馬頭 一同 同 林坊

〔後深心院關白記〕永和四年八月三日癸卯、二條宰相來、有續歌與披講之時分、日野大納言來、詠物名各一首、せにをうくる、宰相書題、庭前有此花、今日賞之、近來出來花也、尤有興、

〔新撰字鏡草〕菰五勞反、緊、細、草、波、久、邊、良、 蕪波、久、邊、良、

〔本草和名十八〕繁蕪仁、謂上音煩、 一名鷄腸本 一名覆蕪、一名菰音放、已上二、名出、兼名苑、 一名百滋草出、注、 和名波

久倍良、